

令和5年度 全国学力・学習状況調査の結果概要と今後の取組みについて

1 調査対象

- 小学校調査
 - ・小学校第6学年、特別支援学校小学部第6学年
- 中学校調査
 - ・中学校第3学年、特別支援学校中学部第3学年

2 調査事項

- 教科に関する調査
 - ・小学校 国語、算数
 - ・中学校 国語、数学、英語
- 質問紙調査（児童生徒、学校）

3 結果の概要

○教科に関する調査の平均正答率について（全国より上回る 、全国より下回る ）

（%）

	小学校		中学校		
	国語	算数	国語	数学	英語
市	65	62	71	53	45
全国	67.2	62.5	69.8	51.0	45.6

4 調査で見られた傾向等と要因について

小学校

【国語】

- 正答数が低い児童の割合が全国よりも高い傾向が見られた。
- 複数の資料から情報を読み取り、関連付けて、自分の考えを表現することに課題が見られた。

《要因》

- ▶ 全国よりも高い無解答率
- ▶ 目的に応じて必要な情報を見付けたり、情報に関連付けて整理したりする学習経験の不足
- ▶ 難しい問題にも粘り強く取り組む態度に課題

中学校

【数学】

- 全ての領域で全国平均を上回った。
- 特に、昨年度調査で課題があった、データ全体の特徴や傾向を読み取ることについて、改善が見られた。

《要因》

- ▶ 昨年度調査で課題が見られた問題を分析し、研究会で実践内容を共有したことで、授業改善へとつながったこと

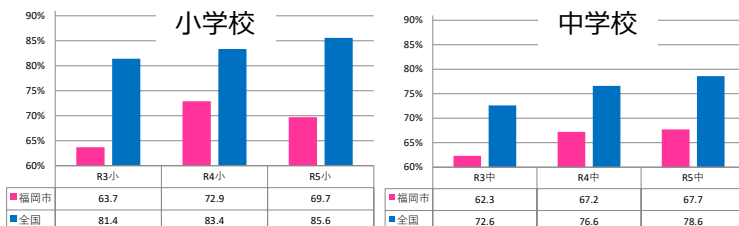
【英語】

- 書き手が伝えたいことを読み取ったり、聞き取ったりして、自分の考えや理由を書く問題で課題が見られた。

- ▶ 英語を「聞く」「話す」「書く」「読む」を総合した力を発揮できるような学習活動の設定が十分ではないこと

質問紙調査

児童生徒に対して、前年度までに、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか。



- 全国を下回っており、授業で身に付けたことを発揮、活用させる学習活動の設定が十分ではないことが考えられる。

5 今後の取組み

- 学校 ◆全学年、全教科で、課題の共有、学力向上の推進
- ◆中学校ブロックにおいて、目指す子ども像や課題を共有した上での共通実践
- 委員会 ◆各学校の実態にあった指導助言
- ◆学力向上や主体的な学びにつながる研修内容への見直し

授業改善